

「旅もいのちも諦めない ～コロナ禍だからこそ今できることを～」

一般社団法人 オリパラ KAIGO Next Action
〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 6 番 11 号

助成事業の概要

「ゆめ旅KAIGO!2020」プロジェクトの一環として、5回目、そして6回目となる2度のフォーラムの実施を企画・実施した。当初予定では6月頃、つまり1年延期となった東京オリンピック・パラリンピック大会本番直前に時期を合わせ、東京都内にて集合研修型のフォーラムの1回開催を想定していたが、コロナ禍による感染拡大防止の観点から「集合型の研修」を見合わせることにした。そこで前年度のオンラインフォーラムの実績のベースを活かし「コロナ禍だからこそできること」を軸として検討した結果、「6月と11月の年2回」「オンライン」での実施とし、テーマもそれぞれ「旅もいのちもあきらめない (6月)」「みんな違っていい、あなたも私も… (11月)」と銘打ち、全国からの参加者、出演者がオンライン上で集い、フォーラム形式の多様なテーマで研修を行うことをめざした。

事業の成果

1年延期となった東京オリンピック・パラリンピック大会開催の直前期に、これまでの活動の節目・総括として、要介護高齢者を中心とした「観戦希望者」と、サポートする立場にある関係者との情報共有、意見交換、ツアー企画などを共有することを目的に計画したが、本大会の無観客開催が決定的となり、冒頭で述べたさまざまな事業の変更を行った。そのプロセスについて、2021年1月より月一回程度の準備会合をオンラインで

開催した。結果、計2回のオンラインフォーラムを行うことに加え、8月に沖縄で「ゆめ旅KAIGO! ×琉球リハビリ～「FC琉球vs ブラウブリッツ秋田」でゆめ旅を実現させよう!!」を東京オリンピック・パラリンピック大会の生応援企画に代わって実施することしたが、コロナ禍の影響で直前に中止としたため、下記の内容にてオンラインフォーラムを計2回実施した。

【1回目】

ゆめ旅KAIGO!2020 フォーラムVol.5 (オンライン)
メインテーマ「旅もいのちも諦めない」
6月20日(日)13:00～15:00 Zoomウェビナー
主なプログラム

1. 基調講演 車いすユーザーが語る被災体験
「防災＝福祉 次なる災害から生き延びるために！」講師 高橋 未宇 氏
2. 「ゆめ旅」高知プロジェクトメンバー報告
「東日本大震災から学ぶ～山と川と海と生きる 高知から～」
3. 「ゆめ旅」学生委員のボッチャ交流会報告
「ボッチャキャラバン」は近隣で！」
4. スペシャルゲストトーク
「諦めていた“旅行”を叶える」～旅行医として～
トラベルドクター 医師 伊藤 玲哉 氏

【2回目】

ゆめ旅KAIGO!2020 フォーラムVol.6 (オンライン)

メインテーマ「みんな違っていい、あなたも私も…」

11月13日(土) 13:00～15:00 Zoom ウェビナー

主なプログラム

1. 基調講演「病気があっても旅行へ行きたい！～あなたらしい生き方へ～」
トラベルドクター 伊藤 玲哉 氏
2. 「はな・まちトーク」スポーツでミライをつくる
パラ陸上解説者 花岡 伸和 氏 / フリーアナウンサー 町 亞聖 氏
3. 「ゆめ旅」学生委員レポート 世代を超えて一緒に。「ボッチャ」で地域をつなぐ！
4. 「ゆめ旅」高知レポート
2025大阪万博へ 龍馬を導いた絵師を訪ねて。映画「竜とそばかすの姫」の舞台へ

成果の広報・公表

成果報告書を発行・配布するほか、当日の様子を編集した動画ファイルを当法人のサイトに掲載した。また、フォーラム実行委員メンバーによる引き続きの広報や、他の高齢者施設やNPO 団体との連携なども期待できる。東京オリンピック・パラリンピック大会のほとんどの競技が無観客開催となったことで「人生2度目の生応援＝要介護高齢者が競技会場へ行って応援する」という本会の目的は実現できなかったが、本会がめざしている「すべての人が自由に気兼ねなく外出し、社会の一員として活躍できる社会を創造する」ことは、社会開発の視点からも引き続き大きな意義を持っていると考え、「いまできることをできる限り」との考えで活動を継続してきた。その象徴的な活動が、前年度から続いたこのオンラインによる「ゆめ旅KAIGO！フォーラム」の実施と成果の周知であった。

今後の展開

ゆめ旅KAIGO！プロジェクトのこれまでの特徴を「橋渡し型社会関係資本」とすると、その長所は今後も活かしていきたいと考える。それには異なるバックグラウンドを持つ実行委員がそれぞれの知見を持ち寄り協働することに加えて、介護旅行をサポートするトラベルヘルパーやトラベルドクター、日常の移動支援に取り組むNPO、介護事業を行っている社会福祉法人などとのさらなる連携強化が不可欠であることを実感している。また、かかわった実行委員や大学生メンバーも要介護高齢者をはじめ多くの人に貢献できたことは自己実現にもつながるものといえる。これらの実現のために必要な人的ネットワークやリソースをこの数次のフォーラムを通じて得ることができた。

今後も多くの人に関わるテーマに関して、関係者がこれからも集い、互いに補い合い強化しあえる関係性をつくり、それぞれにできる活動を具体的にデザインし実行していきたいと考える。